

脳腫瘍・痴呆症の治療や疼痛制御を目指す抗体創薬

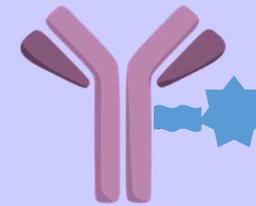
(教授・伊藤彰彦, aito@med.kindai.ac.jp)

Research Area

(背景・目的) 癌患者の5年生存率は着実に延長しているが、脳転移はがんサバイバーのQOL低下を招く。また、急速に高齢化が進む中、痴呆症の増加は社会問題化している。それら課題に対処するため、独自に開発した神経親和性抗体を用いて新たな薬剤送達法や治療戦略を樹立する。

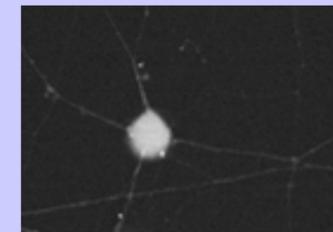
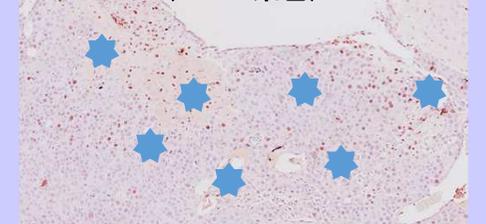
1. 神経送達ベクターとしての構造最適化
2. 頭蓋内薬物送達の実証
3. 抗腫瘍効果・痛覚抑制効果の証明

機械的刺激による神経細胞発火実験
✓ 抗体が発火を抑制するか？

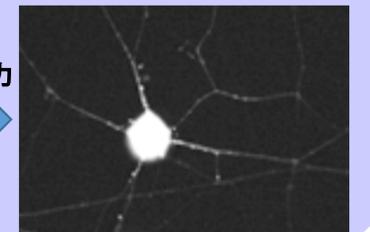
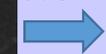


抗体薬物複合体

頭蓋内移植腫瘍における細胞死誘導 (TUNEL染色)



衝撃力



Recent Activities

- Elevated hydrostatic pressure causes retinal degeneration through upregulating lipocalin-2. Yoneshige *et al*, Front Cell Dev Biol, 9:664327, 2021
- 特許 慢性腎臓病の間質病変重篤度マーカーの発見とELISA開発(特願2018-232459)